

令和6年能登半島地震被害による災害支援活動報告書(日報)

別添3

日本臨床衛生検査技師会
災害対策本部宛て

被災地支援班
報告者氏名: 宇野 良美
報告日時: 令和 6年 3月 24日

令和6年能登半島地震災害おける災害派遣チームの活動を下記のとおり報告します

活動日時	令和 6年 3月 24日
活動場所(避難所等)	珠洲市(緑丘中学校、直小学校)
活動主目的	DVT検診(Dダイマー、下肢静脈超音波検査)、弾性ストッキング着用指導、血糖測定
帯同医療チーム名	福井県臨床検査技師会

【具体的な活動内容】

1. 参加者

大谷悠人、杉本充、大竹由香、前田文江(福井大学医学部附属病院)、小原信之(あわら病院)、平田幸枝(宮崎病院)、渋谷翼(公立松任石川中央病院)、宇野良美(林病院)

2. 活動時系列

第一日目 3月23日(土) レンタカー2台で移動

18:00 渋谷 石川県金沢市 アパホテル金沢西に到着

18:00 福井・あわら・三国班(杉本、大谷、小原、平田) 芦原こども園出発し、19:14 石川県金沢市 アパホテル金沢西に到着

19:02 福井・越前班(大竹、前田、宇野) 福井県立大学出発し、20:20 石川県金沢市 アパホテル金沢西に到着

第二日目 3月24日(日)

5:55 ホテルロビーにチーム全員集合し、顔合わせ。

6:02 ホテル出発、のと里山道路を利用(内灘～穴水)途中、西山PAにて休憩、横田から低速運転

7:57 穴水総合病院到着、機材物品の引き渡し(日臨技機材①②)と受け取り(JAMT機材)、搬入

8:05 ミーティング

8:30 ミーティング後、穴水総合病院を出発、緑丘中学校に向けて出発

9:30 緑丘中学校到着、検査会場準備

10:00 緑丘中学校にて検査を実施

12:03 緑丘中学校検査を終了、片付け

12:17 直小学校に出発

12:20 直小学校到着、昼食

12:59 直小学校にて検査会場準備

13:10 直小学校にて検査を実施

14:25 直小学校検査を終了、片付け

14:38 穴水総合病院へ出発

15:30 穴水総合病院到着、機材確認しJAMT機材は返却、日輪技提供物品の使用状況を確認

16:15 石川県班の車にJAMT機材、日輪技提供物品を詰め込む

16:30 避難所毎のDVT検査結果報告、DVT陽性者の所見報告

16:55 解散

17:18 解散後、帰福

19:44 福井・あわら・三国班 解散(芦原こども園)

19:08 福井・越前班 渋谷さんをアパホテル西金沢下車

20:38 福井・越前班 解散(福井県立大学)

3. 活動内容とその詳細

1) 下肢静脈超音波検査 計 27件(新規血栓陽性者 4名)

緑丘中学校(16 件)

新規血栓陽性者数 4名

うち陽性者フォロー 1名(フォロー1名;以前片足に血栓有り、今回反対足に血栓有り、充满)

(ヒラメ筋径9.8mm拡大 1名)

直小学校 (11 件)

新規血栓陽性者数 0名

うち陽性者フォロー 0名

(静脈性血管瘤 1名)

2) Dダイマー検査件数 4件

3) 血糖測定件数 0件

4) 弾性ストッキング着用指導実施 有 緑丘中学校(6件)、直小学校(1件)

5) DVTスクリーニング前問診、血圧測定、酸素飽和度測定実施

6) 活動のまとめ

下肢静脈超音波検査を実施しつつ問診、血圧測定、酸素飽和度測定をした。緑丘中学校では、以前DVT検診にて血栓の指摘を受けた方のフォローアップが1名あった。

以前DVT検診にて血栓陰性であったが、今回血栓陽性となった新規血栓陽性者が緑丘中学校で3名確認できた。

血栓陽性者のDダイマー測定値(コバス)は、いずれも $<1\mu\text{g/mL}$ と低値であった。血圧は、最高血圧160mmHg以上、最低血圧100mmHg以上と高い方もいらした。

4. 日臨技報告活動経費 合計 61,530円

1) 福井・あわら・三国班(福井市～珠洲市往復)

福井班 解散(福井県立大学～珠洲市往復)

① 高速道路代 2,840円×2台 合計 5,680円 ② レンタカーガソリン代 2,450円+2,800円 合計 5,250円

③ レンタカー代 25,300円×2台 合計 50,600円

5. 活動課題

晴天で避難者の方々は家の片づけに戻られている方が多かったので、件数は少なかった。課題となるものは抽出できなかった。気づいた点や継続出来たらよい点を挙げる。

1) レンタカーについて

今回、移動日までワンボックスカーの予約待ちをしたが、年度末に重なり時期的な関係でセダン2台での契約となった。各4名乗車で狭くJAMT機材、日臨技提供物品はすべて乗らない可能性があり、石川県の佐藤さん(同波多野先生チーム)の車に搬入し、運搬して頂いた。

2) 日臨技残物品の確認について

避難所では、使用時に使用した物品個数を作成した用紙に書き込んだ。日臨技提供物品の箱表に機材チェックリスト(入り数の記載あり)が作成されており、終了時に残数と使用数を確認し、残数欄に残数を記入した。機材チェックリストに入り数を記載してくださったことで、物品残数の確認がスムーズに行えた。

3) 検診時の問診について

下肢静脈超音波検査実施しながら問診・血圧測定・酸素飽和度測定を行う事で、効率よく実施することが出来た。血栓陽性者には、下肢静脈超音波検査終了時に続けて足首とふくらはぎの周径を測ることで、採血中に弾性ストッキングのサイズを選択でき指導まで効率よく実施することが出来た。

6. まとめ

天候が良く家に帰られておられる方が多く、前回同様DVT検診者が少ないため課題などの抽出は難しい。実施する私たちも経験者の方がおり春休み中のため医学部生の参加もあったことで、問診や血圧測定、酸素飽和度測定が超音波検査中にでき、採血、Dダイマー測定、弾性ストッキング指導までスムーズに効率よく実施することができた。

DVT検診者が少なかったが、緑丘中学では、血栓陽性者 4件/16件(25%)と陽性率が高い結果となった。(先週は約10%くらい)緑丘中学校と他の避難施設でお世話をされている方から新規血栓陽性が確認でき、地域の避難者だけでなく避難所のボランティアの方も声をかけ検査実施を促すとよいのかもしれないと感じた。

JMATの活動は3月31日で終了となり、4月以降は石川県が引き継ぎ活動を実施していくとのこと。今後、5月頃(震災から5ヵ月)にDVT検診を実施するかもしれないとの事であった。